

沙羅の樹文庫だより



代掻きが終わって田植えを待つ (向こうに見えるは那須連山)

今月の本についての感想

文庫あれこれ◆アートフェスティバルも三分の一が過ぎましたが、みなさんは既にいろいろ見学なさいましたか？今年はどこがおすすめでしょう。◆でも連休前半は寒かったですねえ。(と言っても私は国内にいなかったのですが)。2日に帰って寒くて震えました。◆2女が、チケットがこの瞬間安いからと突然誘ってくれて、娘の住むニューオーリンズ郊外へ1週間ほど行ってきました。娘夫婦の愛犬が体調を崩して、遠くには行かれませんでした。それでも、ニューオーリンズ(アメリカ南部ルイジアナ州、デキシーランドジャズとハリケーンで有名)のフレンチクォーターを歩き、ミシシッピー河沿いのプランテーション(風と共に去りぬ、を思い出してください)の保存された地主の屋敷とかつての奴隷小屋を垣間見ることができました。◆いつも夫さんにあなたの文庫便りは私的なことが多すぎると言われているのですが、関心があったら、別紙(予定)をごらんください。◆出かけるまで、別件で仕事があり、向こうでリフレッシュしてきたつもりが、このところ疲労気味。今日(11日)から開館だというのに、未だ文庫便り作成中。イベントのテーマ別本の展示も途中で、とほほ…。◆でも今回はNさんに聞いて、私、お気に入りの藍染ブラウス、ゲットしてきちゃいました。Nさんの裂き織りが手に入らなかったのは残念。◆天気予報って、最近、本当に正確ですね。今日は予報どおり雨です。いくつかのイベントも中止だとか、それで、お客さん、いらっしゃるかしら。◆アートフェスティバルならではの出会いや、日頃目に留まらない本たちをながめに、いらっしゃってくださることを期待しています。どこもここも緑。文庫も姫しゃらの青葉がまぶしいです。明日は、<本について語ろう会>です。来週は<おはなし会>。聴いたことのない方、たまには、どうぞ。緑のなかで肉声のお話を聴くのはなかなか耳心地のよいものですよ。(西村)

◆駐車のご協力感謝いたします。引き続きお願いします◆

アートフェスティバルも中盤
文庫開館してま〜す：11日(土)〜20日(月)
 ♥テーマでめぐる文庫まるごと展
 別紙参照
 ♥本について語りましょう会・好きな本・懐かしい本
 12日(日)午後3:10〜5:30
 ♥若葉のころのおはなし会
 18日夕5:00〜 (大きい人向け)
 立川おはなしボランティアの皆さん&おはなし・沙羅
 19日午前10:30〜11:45(子ども向け)
 立川おはなしボランティアの皆さん & 100かいだてのいえのいわいとしお・田中清代さんご夫妻

7月の催し物のお知らせ
 ♥海の日のおはなし会 会場は伊豆高原駅大橋の下
 7月14日(日)午後5:00〜7:30
 ♥文庫開館記念子どものためのおはなし会(文庫で)
 7月15日(月)午前10:30〜11:45

☆☆今後の開館スケジュール☆☆
 ◆6月は通常15日(土)、16日(日)
 ◆7月は変則13日(土)、14日(日)
 開館記念日が海の日ですので、7月文庫の開館日はそれにあわせます。(第2の土日です)
 ※15日午前は開館記念日おはなし会
 ◆8月は16日(金)〜20日(火) long
 ◆9月は通常14日(土)、15日(日)
 ◆10月は通常19日(土)、20日(日)
 ◆11月は通常16日(土)、17日(日)
 ※文庫の時間：土曜日は午後2時〜5時、
 日曜日は午前10時〜午後3時
 ※毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。
 午前10:30〜11:00
 《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》
 おはなし・沙羅の勉強会は
 毎月第3土曜11:00〜13:00

沙羅の樹文庫 電話 0557-51-3737

わかば

1 あざやかなみどりよ あかるいみどりよ
 鳥居をつつみ わら屋をかくし
 かおる かおる 若葉がかおる

2 さわやかなみどりよ ゆたかなみどりよ
 田畑をうずめ 野山をおおい
 そよぐ そよぐ 若葉がそよぐ

作詞：松永みやお、作曲：平岡均之

今季節にふさわしい懐かしい小学唱歌
5月のうたです。
18日のおはなし会のはじめにNさんが歌います!

5月に文庫に入った新しい大人の本

フィクション

『ゆうじょう』(村田喜代子著 新潮社 2013)
 『黙示』(真山仁著 新潮社 2013) ※request
 『嵐のピクニック』(本谷有希子著 講談社 2013)
 『人間の運命9, 10』(芹沢光治良著 勉誠出版
 2013) ※寄贈 『森瑤子自選集7』(集英社)

短歌・エッセイ

『花やすらい—道浦母都子歌集』(道浦母都子著 角
 川書店 2009) 『蘇生した魂をのせて』(石
 牟礼道子著 河出書房新社 2013) ※request
 『鮎ほか』(阿川弘之著 新潮社 2013) 『雪
 の上のあしあと』(杉みき子著 恒文社 2001)
 『現代作曲家探訪記—楽譜からのぞく世界』(林光著
 ヤマハミュージックメディア 2013) 『アイル
 ランドモノ語り』(栩木伸明著 みすず書房
 2013)

ノンフィクション

『真実の満州史 1894—1956』(宮脇淳子著
 ビジネス社 2013) 『国民のコトバ』(高橋
 源一郎著 毎日新聞社 2013) 『新霞ヶ関料
 理日記—随筆と料理レシピ』(大饗膳蔵著 恵友社
 2010) 『宮本常一の写真に読む失われた昭和』
 (佐野眞一著 平凡社 2013)

文庫

『東慶寺花だより』(井上ひさし著 文春文庫
 2013) 『破斬』『熾火』『秋霜の撃』『相克の渦』
 『地の業火』(勘定吟味役異聞)(上田秀人著 光文社文
 庫 2013) ※寄贈 『下天を謀る 上・下』(安部
 龍太郎著 新潮文庫 2013)

5月に文庫に入った子どもの本

えほん

『くまのぼりす』『だれのなきごえかな』(ブルーナ作
 松岡享子訳 福音館書店 2013) 『おおさむこさ
 む』(こいでやすこさく 福音館書店) 『庭にたね
 をまこう!』(ロビンソン文・絵 こみやゆう訳 岩波
 書店 2013) 『かわうそ3きょうだい』(あべ弘
 士さく 小峰書店) 『月夜のバス』(杉みき子作 黒
 井健絵 偕成社) 『ももたろう』(五味太郎さく
 絵本館) ※寄贈 『むらの英雄—エチオピアのむかし
 ばなし』(わたなべしげお文 にしむらしげお絵 瑞雲
 舎 2013)

よみもの

『ソウの家にやってきた赤アリ』(ヴァルクス作・絵
 伏見操訳 文研出版 2013) ※ 『アンナのうちは
 いつもにぎやか』(アティヌーケ作 ローレン・トピア
 絵 永瀬比奈訳 徳間書店 2012) 『小さな雪の
 町の物語』(杉みき子作 佐藤忠良画 童心社) 『魔
 使いの悪夢』『魔女の物語—魔使いシリーズ外伝』(デ
 イレイニー作 田中亜希子訳 東京創元社 2012)
 『スターリンの鼻が落っこちた』(ユージン・イェルチ
 ン作・絵 若林千鶴訳 岩波書店 2013) 『ツバ
 メ号の伝書バト 上・下』(アーサー・ランサム作 神
 宮輝夫訳 岩波少年文庫)
 『三本の金の髪の毛—中・東欧のむかしばなし』(松岡
 享子訳 降矢なな絵 のら書店 2013)
 『ペーパータウン』(ジョン・グリーン作 金原瑞人訳
 岩波書店 2013) ※エドガー賞受賞

ノンフィクション

『ちびまる子ちゃんの読めるとたのしい
 難読漢字教室』(集英社 2013)

♥こんな本入れました♥

日本の児童文学黎明期に海外の子どもの本をたく
 さん紹介し児童文学世に影響大だった瀬田貞二の
 名著。子どもの本に関心のある方、必見。
 『瀬田貞二子どもの本論集 児童文学論 上・下』
 『瀬田貞二子どもの本論集 絵本論』
 『瀬田貞二 落穂ひろい—日本の子どもの文化を
 めぐる人びと』 以上、福音館書店刊
 『幼い子の文学』(中公新書)

✿広瀬さんからいただいた本✿

5月に書架にならぶ本

えほん

『あかちゃんたいそう』『いろいろだんご』『あつ
 たあつた』『いじわる』『だいすき、でも、でも
 ね』『かくれんぼどうぶつえん』『あそびたいも
 のよつといで』『おじいさんのしごと』『ぼたんち
 ゃん』『ちいさいわたし』『どうしたのプタくん』
 『おやおやじゅくへようこそ』『ぼくがとぶ』『よ
 るのえほん』『おてがみちょうだい』『なりたい
 ものだらけ』『ともだちをさがそう、ムーミントロ
 ル』(『もう、おおきいからなかないよ』
 『みどりのスキップ』(安房直子作 出久根育絵 偕
 成社 2013) 『千年もみじ』(最上一平作 中
 村悦子絵 新日本出版社 2012) 『チェロの木』
 (伊勢英子作 偕成社 2013)

★まだまだあります。次回は読み物を紹介、配架予定。

レンズ雲 知っていますか



2013年5月に読んだ本についての感想

2013年5月9日 By 森林浴

『9条どうでしょう』内田樹・小田島隆・平川

克美・町田智浩著 ちくま文庫 2012年10月

第1刷

これは昨年秋に出版されたが、実は2006年に毎日新聞社から刊行された7年前の本の復刻版。2006年とは第一次安倍晋三内閣が組成された年なのであって、当時盛んになった憲法改正論議を踏まえて、内田樹を中心に彼の信頼する論客3人を集めて急遽出版されたもの。今回の無修正復刻版は、この論議については2006年の議論を全く修正する必要を感じないという内田樹の確信に基づくものであろう。今度読んでみて良い論客を集めているなと感心した。韓国人として生れて18歳で日本国籍に転じた町田智浩、緻密で冷静な平川克美、機知と皮肉を小気味よく縦横に駆使する小田島隆、そして武道家の腕力を駆使して要点を押さえる内田樹。内田は『憲法9条と自衛隊の「内政的矛盾」は、日本がアメリカの「従属国」であるという事実のトラウマ的ストレスを最小化するために私たちが選んだ狂気のかたちで

ある。そして、その解離症状から引き出しうる限りの疾病利得を私達は確保してきた。それは世界史上でも例外的といえるほどの平和と繁栄をわが国にもたらした。だから私はこの病態を選んだ先人の賢明さを多としたいと思う。』(71ページ)と言い切る。時宜に叶った面白

『原発のコストーエネルギー転換への視点』

大島堅一著 岩波新書 2013年1月第4刷

これは原発により生み出された電力のコストは一体幾らなのか、に関する精密かつ誠実な研究書で、2011年に大仏次郎論壇賞を受賞した。私自身昔サラリーマン時代に会社の「原価計算」を担当したことがあるが、原価として何処まで含めるのかは考え方・視点で大いに変わってくることは分かる。著者は発電所の現場で発生しているコストだけでなく、いわゆる「社会

的コスト」を含めて計算せよという。

発電に直接要するコストでの比較(円・キロワット時)

原子力——8.53 火力——9.87 水力——7.09

これを見ると一見原子力発電は安いように見える。しかしこれに政策コスト(国が税金で別

途支払っているコスト)を加算するだけで、

原子力——10.25 火力——9.91 水力——7.19

と原子力は割高となる。

さらに、一旦事故が発生した時のコストを加算することになると、フクシマ原発事故のコストだけで、少なくとも8兆5000億円ととてつもないコストが発生する。

さらに原子力には「バックエンドコスト」が含

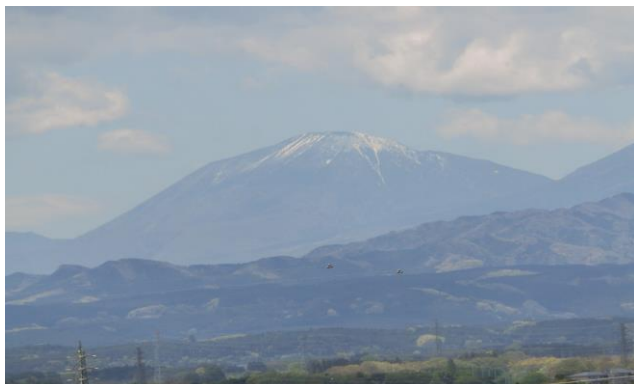
まれなければならない。

これは、燃料再処理や放射性廃棄物の処分コストなどで、わが国全体で少なくとも現状で 18 兆 8000 億円と見積もられている。

これらを総合的に見れば、原子力発電の経済性はまず認めることはできない、ということになる。

著者はこれをフクシマ原発事故の発生した 2011 年の暮れに素早くまとめて世に大きな衝撃を与えた。そして「脱原発は可能だ」の章で書を閉じている。

.....



春の男体山・麦畑（栃木県北に住む西村夫写す）



文庫は今、バラさかり

文庫

その1

3月にご案

内した地元

の方主催の



3.11 震災支

援の2つのイベントも成功裡に終了したようです。関係者のみなさま、お疲れ様でした。2

つの取り組みの中心になっているのが、沙羅の樹文庫の会員の方なのはとてもうれしいことです。伊豆新聞に掲載された写真を転載させていただきます。伊豆新聞より転載させていただきました。

いま、伊東市の市長選の宣伝カーが通りました。つきに1度やってくる私でも、もう少し、市が活発になってほしいと吹くといいな。



樹に着生するスパニッシュ・モス（こけ）、見えますか？

櫛の老木の並木の奥にあるかつての地主館

時折の旅の写真などを載せています。今回は、題して

ニューオーリンズこぼれ話

連休初め、突然、2女がチケットをとってきて、ひとりで、娘夫婦が住むニューオーリンズ郊外へ行ってきました。20年ほど前、主人の学会についてニューオーリンズは行ったことがあり、懐かしい場所です。娘のところは、ニューオーリンズ空港からつい2,3年前まで世界一長かった(今は中国が1番)ボンチャートレイン湖にかかる橋をわたったマンデヴィルというところ。ここルイジアナ州はハリケーンに名前がついているのでご存知の方もいるかも。海拔0地帯も多く、スワンプ(湿地、沼地)と呼ばれています。伊豆高原の緑も美しいですが、広さではその比でなく、のどかでした。

ルイジアナ州(州都はバトン・ルージュ)はアメリカの南部にあります。西にテキサス、東にジョージア、ノースカロライナ州などが控えて、ニューオーリンズの東を、かのミシシッピ河がメキシコ湾から北上して、はるかモンタナを水源としています。緯度は種子島の南と同じくらい。州の花はマグノリア(泰山木・映画がありましたね)、鳥は何とペリカン。初めスペイン領だったようですが、フランス系の人からカナダから流れてきて住みついて(フレンチクォーターはその名残)、もちろん黒人の多いところです。



ちょうどジャズフェスティバル開催中でしたが、混むので行かず。

以前、スワンプを舟でサッチモの像と。たので、今回も出そうかな。ニューオーリンズ空港にてが友人から、ワニはマシュマロが好きと聞いてマシュマロを川に放ったのですが、ワニは姿を見せてく

れず、マシュマロだけがプワプワ…。

食べ物は、クレオール料理、ケイジャン料理が特徴で、特に、牡蠣、ザリガニ(写真)、ガンボ(写真)、ポーボーイ(フランスパンにシーフードをはさんだもの)、お菓子は、プラリネ、ピーカンパイ、バナナフォスター、そして熱々のベニエ(写真)など。でもまあ、日本の食事が一番です。

今回特に、ミシシッピに沿ったプランテーション(奴隷を酷使して成功した地主の家のある)を見て、風と共に去りぬと共に、かつての南北戦争前後のアメリカを思い起こしました。(西村)



ニューオーリンズで最古のカフェ、カフェ・ドゥ・モンド。メニューはチッコリーコーヒーと名物のベニエ(粉砂糖をまぶした揚げパン)だけ。



香辛料でゆでたザリガニ



カレーに似たスープの上にお米が。必ずオクラが入るとか。